

福井県坂井市の概況

人口 88,481人
世帯数 31,067世帯
面積 209.67km²
産業構造 1次 4.3%
2次 33.5%
3次 62.2%

坂井市



福井県



東尋坊

心から

笑顔になれるまち

さかい



丸岡城



ゆりの里公園



えちぜん鉄道とそば畑

市内23地区 H19～20年にかけて 住民活動組織 ”まちづくり協議会”が設立



河川清掃



ふるさと歴史学習会



学校田 体験学習



話題提供：福井県坂井市

まちづくりワークショップ・まちづくりカレッジによる気候変動へのアプローチ

”住民主体の地域力”



”住民活動”

起

「住民主体のまちづくり」に取り組む目的は

1. 災害の頻発化、甚大化
2. 産業構造、生活スタイルの変化
3. 人口減少と少子高齢化
4. 交通弱者の増加
5. 課題解決の力を備えた地域が求められる時代に

「住民主体のまちづくり」に必要な要素は

1. 内発的動機づけ

承

転

「住民主体のまちづくり」を成功へと導く手段は

1. 住民ワークショップ
2. まちづくりカレッジ

「住民主体のまちづくり」で目指すゴールは

1. 住民目線で実施される環境まちづくり
2. 住民目線で実施される防災まちづくり
3. “まちの将来ビジョン”の実現に向けた住民活動

結

起 「住民主体のまちづくり」に取り組む目的は

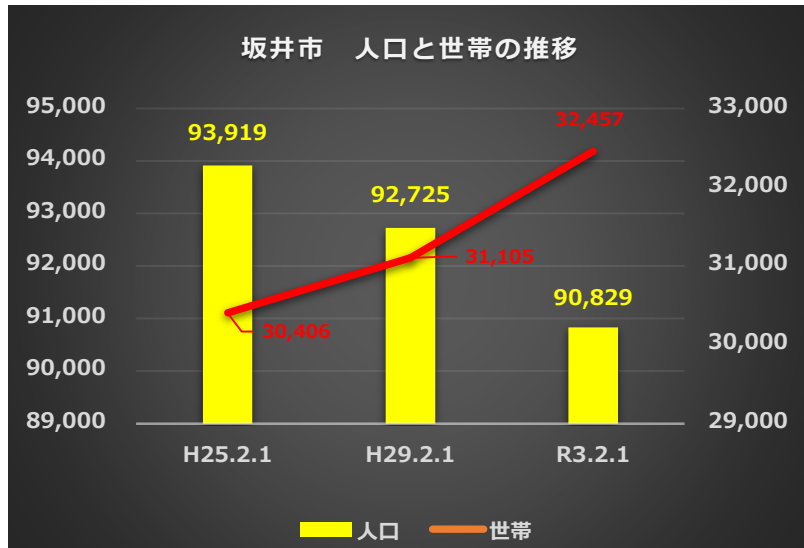
1. 災害の頻発化、甚大化



2. 産業構造、生活スタイルの変化



3. 地域力の低下



4. 交通弱者の増加



5. 課題解決の力を備えた地域が求められる時代に



ローカルSDGs=地域循環共生圏

- ◆ 様々な地域課題を見つめ直し、持続可能な地域へと変化を生み出す
- ◆ 地域固有の資源を活かしながら、それぞれの地域特性に応じて異なる資源を持続的に循環させる自立・分散型のエリアを形成する



承 「住民主体のまちづくり」に必要な要素は



共感したり、受け止めたりする感受性



アイデアや意見を尊重し課題解決へと繋げる



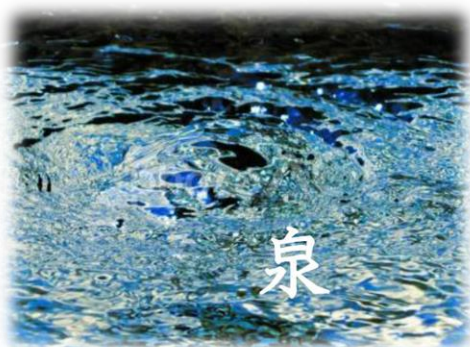
まちづくり、地域づくりの出発点は、住む人が持つまちへの思い

① 未経験者・未知

② 参加の仕組み

内発的に動機づけられるとは・・・

それ自体を「したいからする」というように、
内面から湧き上がってくる意欲（モチベーション）に
根差した状態。



③ 内発的動機づけ

④ 意欲

⑤ 主体性の芽生え

⑥ 担い手の誕生

①「住民主体のまちづくり」を成功へと導く手段は

- ①健康づくり
- ②地域福祉
- ③交通安全・防犯
- ④防災
- ⑤環境創造
- ⑥教育・文化・歴史

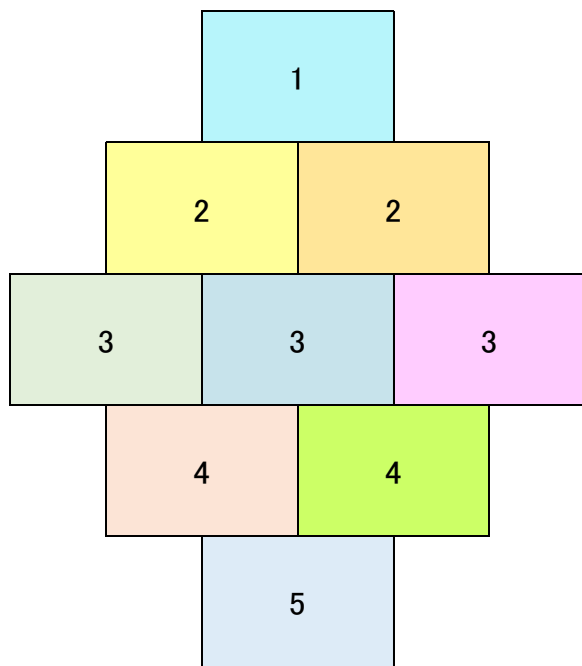
①住民ワークショップ

ワーク 1

これからのまちづくりのための取り組みをダイヤモンドランキングの手法も取り入れながら話し合いました。

ランキングのポイント

どんな視点を重視するかは、
グループの話し合いで！！



特に重要なことは？

- 問題が大きく、**緊急度が高い**こと
- 住民ニーズが沢山**あること
- 長期的な視点**で時間をかける必要があること
- 今までにない発想で**新しく着手**したいこと
- 比較的**簡単にできそう**で実現しやすいこと
- 既に活動**していて継続しやすいこと
- 他の分野と一緒に**取り組めそうなこと
 - ➔1つの事業で**複数の成果**が得られること
- その他・・・

里山教育・創生プロジェクト

防災

食やエネルギーの自給
地元の米など食料備蓄、雨水タンク、太陽光発電、薪炭など資源エネルギーの自給。

教育文化

里山の恵み教育

豊かな里山の生態や文化を教育の場としてフル活用。学校との連携、山村留学。

地域福祉

健康づくりと介護予防

健康体操、ウォーキング、鷹取山ハイキングなどみんなで健康づくりと介護予防。

環境創造

いのちを守る里山教育

学校と地域と専門家が力を合わせて生物多様性や里山資源の可能性を学ぶプログラム。

鷹取山への愛 ♥

登山道整備、みんなで登山、キャンプ、健康ウォーク、鷹取山への感謝と慈しみ。

里山環境の創生

叡智がつまった里山環境を守り、創生。遊休地の植林、里山オーナー、参加型管理。

自然の中でリフレッシュ

森林里山健康ウォーク、鷹取山の登山運動会、様々なアクティビティでリフレッシュ。

ピーターラビットの里
森の手入れや里山の活用を通してふるさとの原風景を守り育て、癒される。

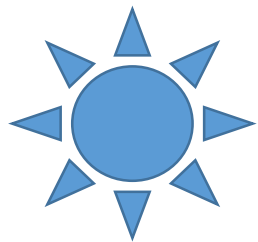


健康づくり

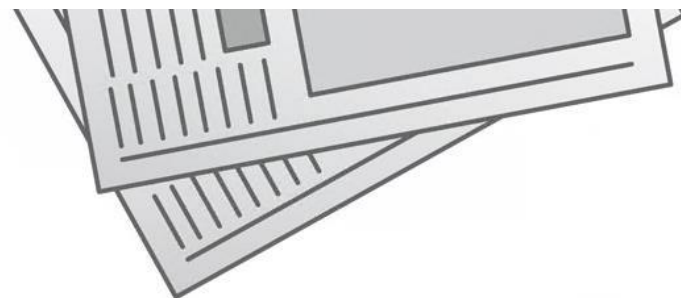
1つの事業で複数の成果が得られる!!

ワーク2

防災学習でたかとりのも**魅力**アップ



どのように
物語をつむぐか



体験通し地域の可能性

防災グループ

たかとりのも郷新聞

2025年10月20日

広告
やまびこ

防災合宿・防災訓練

スタート

地域の絆を深める

普段からの声かけ、見守り、助け合いの人間関係がいざという時の深い絆に！

食やエネルギーの自給

地元米など食料備蓄、雨水タンク、太陽光発電、薪炭など資源エネルギー自給。

ハザードエリア対策

ハザードマップで危険区域を確認。該当エリアを中心に計画的な対策を練る。

防災学習、防災訓練

世代を超えて地域ぐるみで自助・互助・共助について学び、訓練。学校とも連携。

⑦**健康グループ**が避難所体操。キャンプを通して絆が深まる。

⑤**環境グループ**と協働で準備。鷹取山の薪と地元農産物で炊き出し。

③ハザードエリアを徹底調査。危険区域からの参加者募る

①待ちに待った防災キャンプの日！**教育グループ**と協働で企画。

地区防災組織の結成

たかとの郷に防災部会を設置し、集落単位で結成している自主防災組織と連携し防災活動でリーダーシップを発揮。

豪雪災害対策の強化

地域ぐるみの除雪体制づくり、除雪機の配置。除雪ボランティアにはクーポン。

避難所チェック！

自主避難所（コミセン）の防災備品チェック、感染症対策や要援護者支援対策。

要援護者支援の体制

一人暮らし高齢者はじめ援護の必要な方々のリストを作成し、支援体制をつくる。

地区防災計画づくり

市の防災計画をもとに地区単位の課題を整理し、詳細な独自の計画をつくる。

⑥**交通グループ**が問題提起。夜の座談会で豪雪が話題に。

④**教育グループ**と協働で運営。避難所となる学校をチェック！

②**福祉グループ**と協働で調査。要援護者にキャンプの参加を呼びかける。

⑧地区防災組織と地区防災計画の準備を開始！

防災活動を重視

気候変動の進行

地域のレジリエンス強化

災害頻発化

持続可能な社会
のための住民
主体の地域力

適応策の重要性



天災は忘れたころに

1948年6月28日
16時13分発生



やってくる!!!

たかとのりの郷は昭和27年6月28日に発生した福井震災の震源地という大きな災害を経験しています。今年はそのからちゅうじゅう半目にあります。この節目に、この経験と風化をせらるることをなくいなくいつとときに備えるため、地域全体で防災火も進めすための様々な取り組みを行っています。

福井大地震から77年

たかとり防災新聞

2025年
6月28日

北山設備
奥村設備
レストランやまびこ



自助・互助
まず住民一人一人が行なえることとして家庭の中で、防災前日防災火を元にも自分の安全を守るために、いくつかの備えをします。同時に避難する人か少ない場合、このとき近所の人と一緒に助け合います。
●自助・互助
●自助・互助
●自助・互助

「火害」が起こると行政がなかなか来てくれると期待されがちですが、公助には限界があります。
たかとのりの郷では...
自分の命は自分で守る
②互助
この3つの助け合いが効果的に組み合わされ、お力でお心安全と作り出します。

共助
毎年六月二十八日をたかとのりの郷の防災の日と定め、震災と風化させない、縁、防災無線のサイレンを流してもらいます。
●自助
●自助
●自助

編集後記

小原 陸
松浦 宗治
志 也
皆個性豊かた、

②まちづくりカレッジ

第1期(H28-29年度)



第2期(H30年度)



第3期(R1年度)



第4期(R2年度)



第5期 (R3年度)



フロントランナーとコーディネーターの人材育成

第6期生 42名

①学びの基礎を築く

課題解決型の地域づくりを目指すための
「まちの現状」と「課題」を明らかにする

②学びを発展させる

課題を抽出するアンケートの実施や
ワークショップの手法を修得する

③学びを集結させる

課題解決型の地域づくりの材料を制作しプランニングする

④それぞれの地域へ

課題解決型の地域づくりの一つのプランを発表し地元で実践する

身近な人達がつながり、支え合い、助け合える地域づくりを目指して

坂井市 まちづくり カレッジ

第6期 全10回講座

2022年6月～2023年2月

受講生
募集中



応募
締切 6月10日(金)

—今、課題解決の力を備えた地域が求められる時代に—



今期のまちカレは—

まちづくり、地域づくりの出発点は、住む人が持つまちへの思いです。支えあい安心して暮らせる地域、誇りを持てる地域、そして、住んでいて幸せだと思える地域。そんな理想を実現するため、地域課題の解決や地域の未来を考えるプランニングを共に学びあい、まちへの思いを行動に繋げる場、それが今期の「まちづくりカレッジ(まちカレ)」です。

対象

まちづくり協議会及び地域ボランティア団体
受講生20名程度(高校生以上)
※コメンシ職員も対象とします

場所

市内コミュニティセンター

講師

アルマス・バイオコスモス研究所
水上 聡子氏

講座のポイント

- 地域における課題発見とその解決手法、およびプランニング手法を学びます
- まちづくりの舞台を地縁的な結びつきから捉え、地域に根差したつながりから生まれるまちづくりを学びます
- シティズンシップ教育(※1)を通して、ローカルSDGs人材(※2)の育成方法を学びます
- 地域の課題解決に向けて、住民が対話を通して考える「まちづくりワークショップ」のテクニックを学びます
- ワークショップを通じて、内面の意欲的な力を引き出し、地域で活躍できる土壌づくりを学びます
- 地域コミュニティにおけるレジリエンス(※3)を向上させ、住民の自立性や創意工夫を引き出す持続可能なまちづくりについて学びます
- カレッジの学びと並行して、自身が所属する地域の課題解決型プランニングに着手していきます

※1 互いに尊重しながら社会の一員として参画し、その役割を果たす力を育む教育
 ※2 地域の特性をふまえながら、自立的で持続可能な社会を実現するための17の目標に向かって力を発揮できる人材
 ※3 困難や脅威に直面している状況に対して、強靱に適応できる能力、行動力のこと



お申込み
お問合せ先

坂井市役所総合政策部 TEL : 0776-50-3017 FAX : 0776-66-2935
まちづくり推進課 Mail : machizukuri@city.fukui-sakai.lg.jp



夏休みを活用して補講



4 ふりかえり



● 楽しかったこと、心に残ったこと

視野を広げることで、
いろいろな課題がわかったこと。

● 自信をもったこと

自分はしっかり役立てて
いるということ。

有能性

● 印象に残った時間

7-71の課題解決のために
考えた時間。

● 難しかったこと、積み残し課題

7-72の自分を振り返って、得意
苦手なことを書くこと。
自分をみつける機会が少なく、
自分の良いところを活かし
きれなかった。

4 ふりかえり



●楽しかったこと、心に残ったこと

自分の話をすることができたこと。

●自信をもったこと

1回目2回目のときより
自分の意見を多く考えられた、

自律性

●印象に残った時間

全部

●難しかったこと、積み残し課題

4 ふりかえり



● 楽しかったこと、心に残ったこと

自分には思いつかぬことに
様々は意見を知られたこと

関係性

● 自信をもったこと

自分のことと話すこと

● 印象に残った時間

自分の得意 苦手を話しにとき

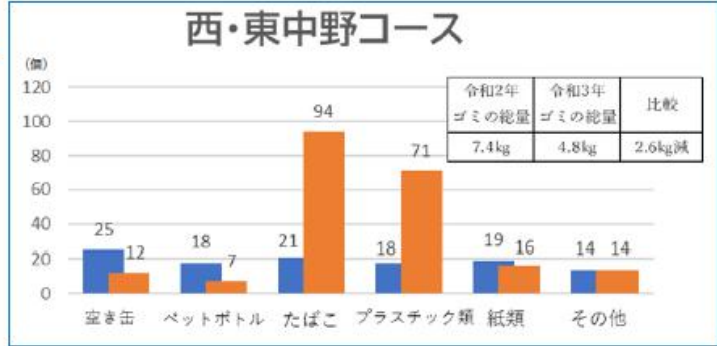
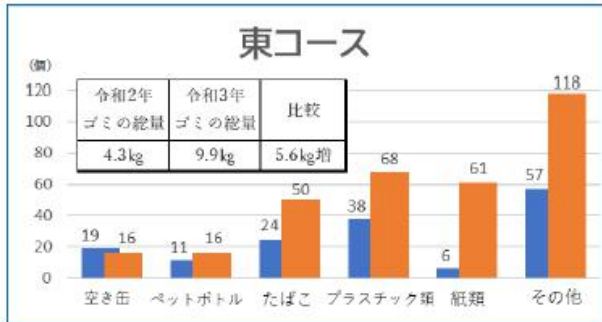
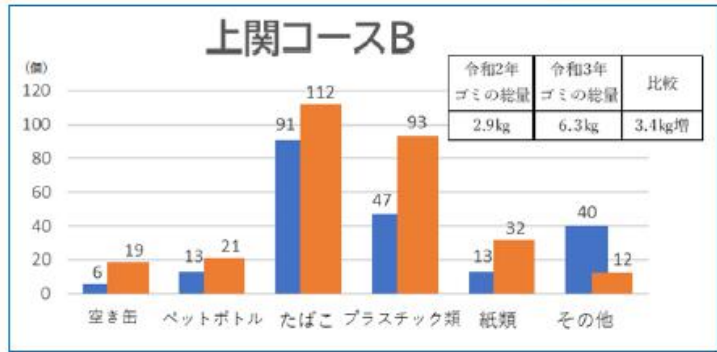
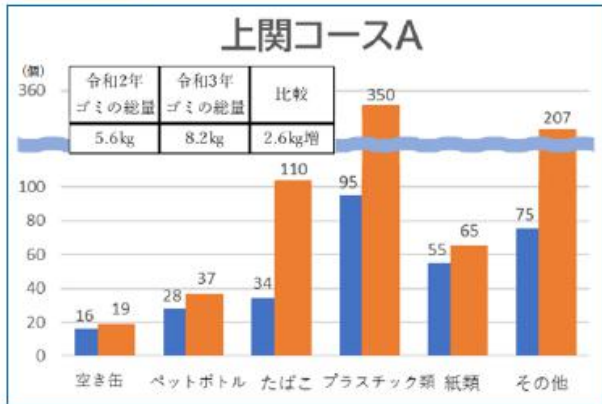
● 難しかったこと、積み残し課題

有能性や自律性をより
につはけること



地球温暖化とごみ問題の関係

コース毎のごみの総量と種類別集計 昨年との比較
■ 令和2年 ■ 令和3年



大関クリーン隊が、きれいなまち「大関」をつくらうと環境保護活動を始めて2年目のゴミ探検。環境保護への意識改革はまだ始まったばかりですが、昨年よりもこんなにポイ捨てが多いとは…。私たち一人ひとりの行動から「ポイ捨てのない」まちを作っていけたらと願っています。キッズクリーン隊も結成しました。「できることから始めよう」を合言葉に、子どもたちと一緒に大好きな大関の環境を守っていききたいです。(N.H)



坂井木部
地区

大関地区

大石地区

約10Km

丸岡城のまち
地区

春江西地区

春江東地区

高棕東部地区



2.住民目線で実施される防災まちづくり

災害に備えて

宝
物

一次避難所
が各集落の
中心にある

防災訓練の
実施

田園が広
がっている

土地柄

理
由

いざという
時に集まり
やすい

各集落が
年1回実施
している

水害時でも
田んぼダム
機能がある

大規模氾濫
を起こす
河川がない

海岸から離
れており
津波の心配
がない



災害が発生したその時は

宝
物

自給自足す
る力がある

プロパンガ
スの保有率
が高い



助け合いの
精神を持っ
た住民性

理
由

農家が多く
米が備蓄
されている

送電線が
断線しても
生活できる

集落の家族
構成を認知
している



災害を教訓に

宝
物

福井震災
震源地丸岡町末政地係
(1948年6月28日 14時13分発生)

理
由

明章小学校で地域
の人が福井地震に
ついて読み聞かせ
してくれている

明章小学校で
防災合宿を実施

福井震災の震源地
の石碑がある

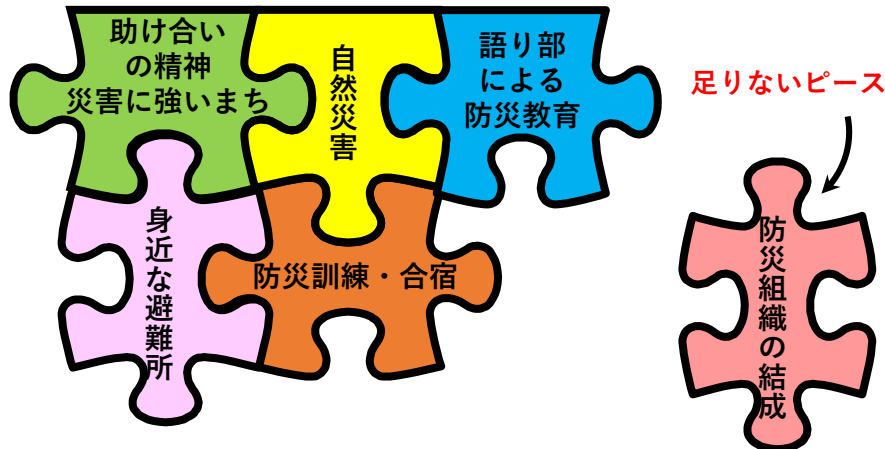


未来の姿

1. 役割の明確化

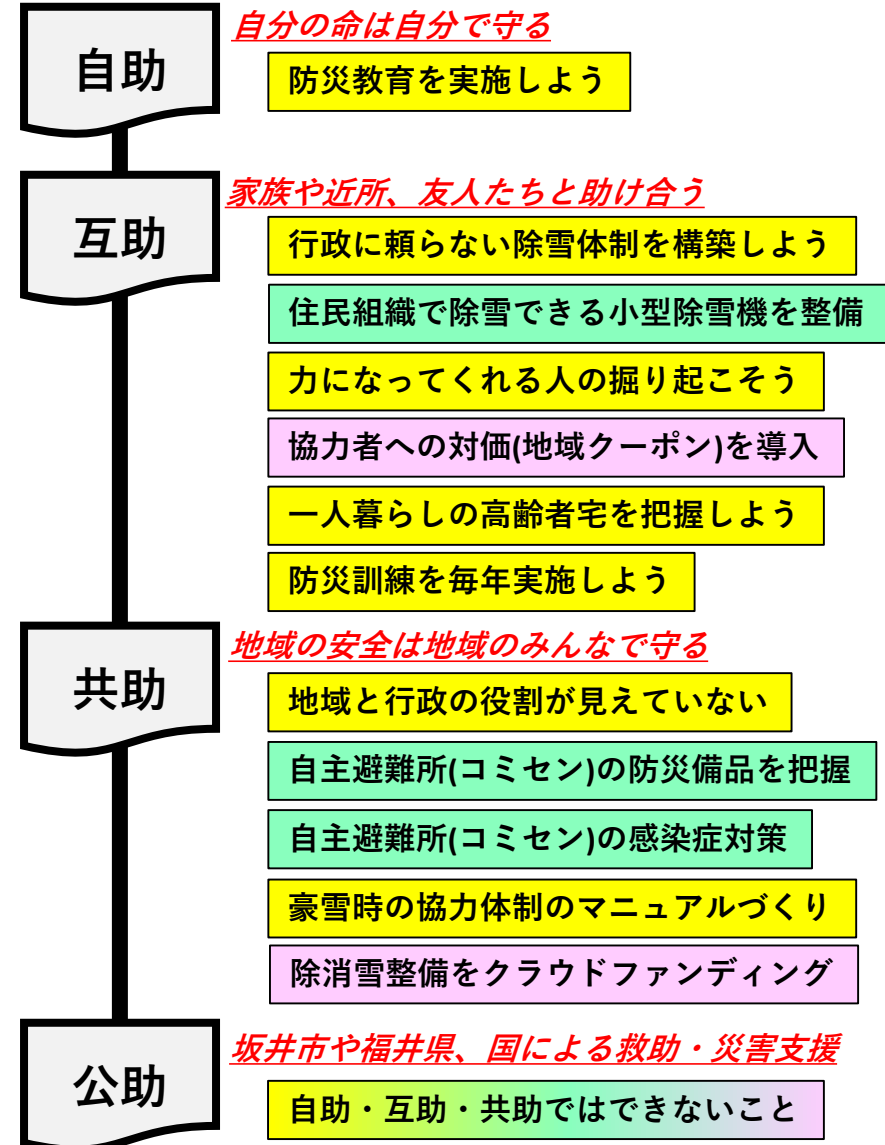
<p>自助</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 防災訓練に参加する ・ 一次、自主避難所を確認する ・ 防災教育を通じて意識を高める ・ 備蓄品を準備しておく 	<p>互助</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 防災訓練を実施する ・ 備蓄米、PGを近所で融通する ・ 豊かな助け合いの精神を活かしてつね日頃一声かける習慣を ・ 災害時は家族、近所の人が無事か確認する
<p>共助</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域単位で危険個所を調査 ・ 災害時は自身の安全を守りながら除雪、消火、避難活動を実施する ・ 福井地震の経験者、震源地を通じた防災教育を実施する ・ 防災合宿を実施する 	<p>公助</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 広域的防災訓練を実施する ・ 防災無線を整備する ・ 市役所、消防、警察など災害時の対応 ・ 復旧、復興の指揮 ・ 災害に関する情報を的確に発信

2. 有事災害(備えて・その時は・教訓に)と地域住民の関係性



実現のための課題

ひと もの かね



防災教室の様子







1




2

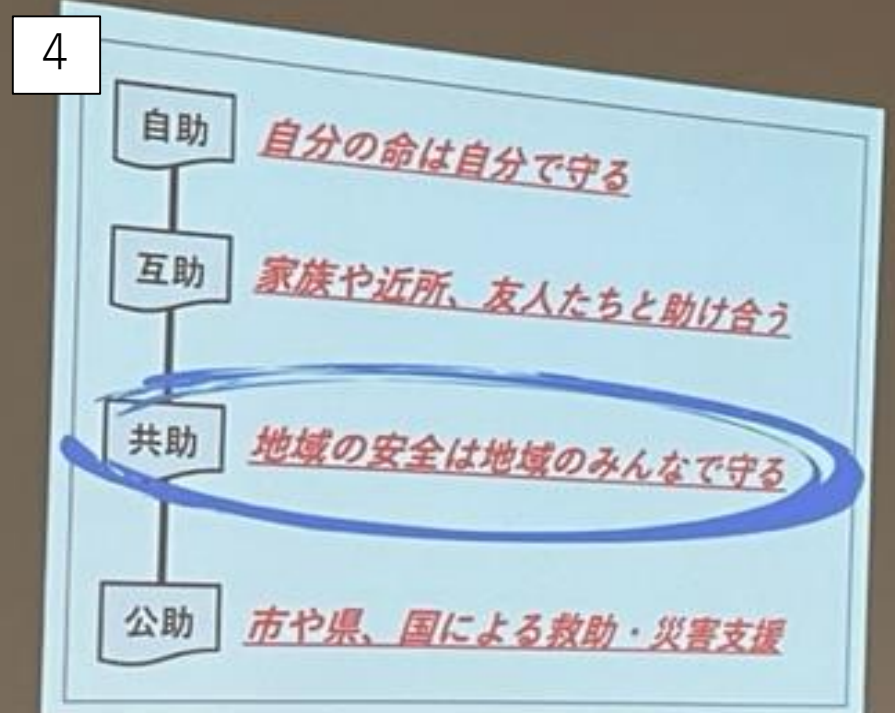
マップづくりを通じて
 住民同士で生活を支え合う

災害時いざという時の避難支援


ご近所福祉の見える化
 地域内の理解や見守り


一緒に考える機会が地域との結びつきが深まる
 「協力体制」が生まれる


3



4

3. “まちの将来ビジョン”の実現に向けた住民活動

プラン一覧

このプランは、ダイヤモンドランキングという手法を用いて、グループごとに考えました。実現しやすいものから順番に、みんなで協力して実践していきましょう。また、これらのプランをヒントに、いろいろなアイデアを考えてみてください。



子どもカフェ企画 カフェの一部を子どもと一緒に企画して運営できるしくみを作る。 例) 駄菓子屋さん	やさしいスポーツ 高齢者や障害者の方々も一緒に無理なくできる簡単な体操を考案し、交流する。 例) ふうせん/バレー	お宝発見! いろいろな方の「得意」を語り起こして、発表する。ハーモニカ、郷土料理etc.	大関のお祭り 地区内のいろいろな施設の方々と一緒に、大関の祭りをつくりあげる。
ダイバーシティ!(多様性の共生) 地域で暮らす外国籍の人達と交流し、悩みや問題がないかを聞いて一緒に考える。	畑と子ども食堂 大人と子どもが一緒に畑で野菜を作り、子ども食堂で地産地消を生かした栄養満点の料理を作る。	HUG研修 避難所運営ゲームを毎年開催し、年齢や障害の有無に関わらず参加できるようにする。	一緒にバリア探検 車椅子などからの不自由な人と一緒にまちを歩き、危険やバリアをチェックする。
ゴミ探検の輪 高齢者や障害者の方々と一緒にゴミ探検を行い、交流を通して理解を深める。	身近な人の安全 災害時にどのように避難するのか、一人暮らしの方々の避難や安否確認方法を考える。	カフェ企画 カフェの一部を高齢者や障害者の方々企業が企画して運営できるしくみを作る。	子ども福祉委員 子どもが民生委員と一緒に、高齢者や障害者の方々のところへ訪問したり文通をして交流する。

新型コロナ対策 コロナ禍でなくなった体やメンタルの調査をして、家や地域でできることを提案する。	ホテル観察ウォーク 星空を見ながらホテルを観察、ウォーキングしながら移動する。	ニューススポーツ 年齢を超えて誰もが気軽に参加できるいろいろなニューススポーツにチャレンジする。
子ども健康隊 子どもが中心となり、家や地域でできる健康づくりメニューを考えポスター・チラシを作り配布する。	問題発見ウォーク みんなでウォーキングしながら、まちの危険箇所発見やゴミのポイ捨て発見をずる。	スポーツで交流 高齢者や障害者の方々も一緒に無理なくできる簡単な体操を考案し、交流する。
夕暮れ&星空ヨガ 夕暮れのサンセットヨガや体操、星空観察会に合わせたおやすみヨガなどを楽しむ。	旬の健康づくり 空いている畑を借りて、旬の野菜を育て、からだに良い季節の料理教室を開く。	畑と子ども食堂 大人と子どもが一緒に畑で野菜を作り、子ども食堂で地産地消を生かした栄養満点の料理を作る。

2. 健康づくり



3. 防災

学校deキャンプ 第2回学校deキャンプの企画を無理なくできる範囲で考え、PTAも一緒に実現する。	区防災支援 各区の防災活動よりよいものにするための研修WSを開催し、地区に持ち帰る。	子ども防災隊 子どもが中心となり、日頃から防災を意識できるようにポスター・チラシなどを作成し各戸配布する。
家の防災チェック 家庭の防災用品のチェック表を作り、各々が調査結果を持ち寄りWSをする。	HUG研修 避難所運営ゲームを毎年開催し、年齢や障害の有無に関わらず参加できるようにする。	身近な人の安全 災害時にどのように避難するのか、一人暮らしの方々の避難や安否確認方法を考える。
防災フェスティバル 家や地域で実践している様々な防災の知恵・アイデアを持ち寄り発表する。	避難所対策 木部地区からの避難者も含め、備蓄倉庫内の備蓄品が十分かを考える。雨水タンクを設置する。	福井地震の学習 福井地震の経験や知恵を語り継いでいくための学習を出勤授業などで開催する。

4. 交通安全・防犯



通学路チェック① 小学生の登下校時に大人も一緒に歩き、子ども目線で危険箇所をチェックする。	通学路チェック② 中学生の登下校時に大人も一緒に自転車で走り、交通や防犯上の危険箇所を確認する。	危険箇所の募集 住民アンケートや手紙、動画等で広く情報を集め、危険箇所と時間帯を調べて公開する。
踏切注意喚起 各鉄道の踏切で一旦停止・安全確認を怠らない手づくり看板を作成し、ルール順守を促す。	心に訴える看板 「あなたは大丈夫ですか?」という心に響くような手づくり看板を設置する。	解決策の提案 安全・安心のために必要なことをまとめ、関係機関を訪問して対策を求めます。
自分達で解決 問題のある箇所のうち、自分達で解決できそうな部分を見つけ実行する。	危険マップWS PTAと子どもたちが中心となり、危険箇所を探してマップを作るワークショップを開催する。	見守り隊のPR 見守り隊の車にステッカーを貼り、声かけ專案の防止に努める。

子どもゴミ作戦 ゴミのポイ捨て禁止や減量を呼びかけるポスター・チラシを作成し各戸配布する。	ゴミ回収deポイント 毎月1回、カフェコーナーで使えるゴミのポイント交換会を開く。	ゴミ問題の学習 まちの環境だけでなく、地球温暖化や海洋汚染につながることを出前講座で学習する。
プラスチックゴミ対策 ペットボトルをやめてマイボトルを持ち歩くなど、プラスチックゴミの減量に取り組む。	ゴミの継続調査 10年計画で同じコースのゴミを調査し、対策の効果を調べて記録する。	ゴミ探検の輪 高齢者や障害者の方々と一緒にゴミ探検を行い、交流を通して理解を深める。
野焼き注意 畑や道端などで、危険な野焼きをしないように呼びかける。	ゴミゼロ大関PR ゴミを捨てさせない大関の取り組みをメディアを使って地区内や市、県内外にPRする。	雨水利用 小学校に雨水タンクを設置し、水やりや環境学習、防災用に活用する。

5. 環境

6. 子ども



子ども食堂企画 子ども食堂で年に3回くらい子ども運営日を決めて、子どもたちが運営する。	子ども安全隊 通学路と遊び場について子どもが中心に調査隊を作り、危険箇所マップを作成する。	畑と子ども食堂 大人と子どもが一緒に畑で野菜を作り、子ども食堂で地産地消を生かした栄養満点の料理を作る。
子どもゴミ作戦 ゴミのポイ捨て禁止や減量を呼びかけるポスター・チラシを作成し、各戸配布する。	子どもカフェ縁日 カフェコーナーの一部を子どもと一緒に企画して運営できるしくみを作る。年に1回子ども縁日も!	子ども防災隊 日頃から防災を意識できるようにポスター・チラシを作成し各戸配布。子ども避難訓練も!
子どもゴミ探検 子どもが中心になって、ゴミ探検の調査や実施方法を考え、大人を巻き込んでいく。	子ども解決隊 安全・安心のために必要なことをまとめ、関係機関を訪問し解決策を提案する。	子どもマイボトル 子どもが中心になって、マイボトルを広げる方法を考え、大人を巻き込んでいく。

坂井市が目指すゴールは

ローカルSDGs時代における

住民主体のまちづくりを目指し



内発的に動機づけられた力



地域の努力によって成り立つ

”まち”を創造していきます